
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時39分）

◇ 高 柳 孝 博 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、高柳孝博君。

（5番 高柳孝博君 登壇）

○5番（高柳孝博君） 通告に従いまして、壇上から質問を致します。

今、まさに衆議院選挙の真っ最中であります。消費税の争点も大事ですが、アベノミクスが地域に浸透できるか。増大する社会保障の財源的根拠をどう担保していくかです。そういった中で地方創生法が成立され、これから戦略が出されてきます。当初12月を予定されていたと思いますが、若干遅れるようですが戦略が出るようです。政権が変わるとわかりませんが、消滅するといわれたこの町の次世代にどのように引き継いでいくのかを選択しなければなりません。消滅すると言われていまして、選択としてはどう消滅させるか、もう一つは消滅に対して、いや、そうではない、活性化していくんだという大きな考え方があると思います。

地方創生は、地域に合わせた戦略が必要であります。国が言うところのまち・ひと・しごとの創生はいま始まったことではありません。国の戦略を待つまでもなく、松崎町としてまち・ひと・しごとをどうするか、戦略をもつ必要があります。

第5次総合計画もありますが、今まで以上の思い切った戦略が必要ではないでしょうか。国政のいかに関わらず、町の存続をかけた取り組みが必要です。

各地域の人びとが自分たちの手で真剣に検討し、そのやり方を決めなければ真の意味での地域の活性化はありません。

田舎に住みたいという都市部のニーズはあるんです。31.6パーセントだと思いますが、ニーズはあります。この町に受け入れてやっていく、活性化させていく考えがあるか、そこで質問します。

1. まち・ひと・しごと創生の取組は。①「まちの資源の保護と活用の具体的取組と成果は。資源の定義・ルール・体制づくりと活用の戦略とその評価および景観条例の取組状況は」でございます。

②町の歴史・文化の次世代への引継はどのように進めるか。マイスターの考えがあるのかどうか。町史編さんとデータベース化、その活用についての考えを問います。

③資料活用・コミュニティ・ビジネス支援など新しい図書館の活用をどう考えるか。町の図書館は・・・、いま町に図書館というのがあるわけですが、その図書館が教育の場として非常に重要な考えを持っていると思うんですが、そのあたりの考えを問います。

2. 「町内のネットワーク創りの取組は」でございます。①各地区との連絡、防災上の取組、サービスの向上に通信技術の活用をどう考えるか。先般議会の中では、地区の職員の窓口のサービス対応というのをやっているとのことなんですが、窓口のサービス対応件数というのはどのようになっているのか。町のICTの活用状況はどのようなものか。総務省も言っているわけですが、ICTを使って活性化していくんだと言っています。

町の行政改革にとってもICTというのは大事だと思いますので、そのあたりが現況どうなっているのか、また今後どうしていきたいのかを問います。

3. 定住化への支援の具体的取組は。先般のI・Uターン者のサポートに対する質問に對しまして、企画観光課に相談窓口的なものを設けてサポートしているんだという回答だったと思いますが、これは受け身相談ではなくて積極的な支援策が必要ではないか。支援策の活用状況はどのようなものかを問います。

以上で壇上の質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 高柳孝博議員の一般質問にお答えします。

1. まち・ひと・しごと創生の取組は。①「まちの資源の保護と活用の具体的取組と成果は。資源の定義・ルール・体制づくりと活用の戦略とその評価および景観条例の取組状況は」についてです

昨年、「日本で最も美しい村」連合に加盟する際に町の重要な資源として「石部の棚田」「なまこ壁の建造物」「塩漬けの桜葉」を挙げさせていただきましたことは、議員もご承知のことと思います。

「石部の棚田」は、石部地区棚田保全推進委員会の皆さんを中心に、オーナー制度を活用し、都市住民と農作業を通じた交流を図るとともに、石部の灯り、コンサート、体験メニューなどの実施により、観光客誘致にもつながっております。

「なまこ壁の建造物」につきましては、なまこ壁技術伝承事業の実施により、伊豆の長八美術館周辺の景観整備が図られるとともに、これまで松崎蔵づくり隊の活動により、なまこ

壁の保存活動が行われてきました。

また、「塩漬けの桜葉」については、多くの桜葉関係の商品が開発され、町のブランド品として登録されるとともに、現在、生産者や問屋、商業者などで桜葉振興会を組織し、法人化に向けた準備も進めております。

資源は、農林水産物や景観、歴史、伝統・文化など地域内にあるもの全てであり、地域に住んでいる人も資源であると考えています。その資源をいかに守り、活用していくかは、ルールを決め、体制を作るということも重要なことではありますが、まず住んでいる人たちが地域の資源（身近な宝物）に気付くこと、発掘すること、保全・活用に向け関わっていくことが大切なことと認識しております。そうした地域を再認識してもらうという意味からも、昨年「日本で最も美しい村」連合に加盟したわけでございます。

おかげさまで、松崎町まちづくりやろうじゃ協議会や高柳議員も所属される桑葉ファームの活動も新たな展開として始まっておりますので、大いに期待しております。

なお、景観条例につきましては、まず景観ガイドラインの策定に向け、準備を進めているところでございます。

②「町の歴史・文化の次世代への引き継ぎはどのように進めるか。マイスターの考えは。町史編さんとデータベース化、その活用は」についてです。

町史の編さんは、町の歴史を後世に残すことを目的に、平成3年度から町史編さん委員会を設置して事業を開始しました。

編さん委員のご尽力で、「神社・寺院編」「教育編」「産業編」「民族編」「漁業編」「通史編」など多くの町史を刊行しています。事業は目的を完了したことで現在は行っておりませんが、将来的にはこれからの町の歴史が積まれていく訳ですので、改めて町史編さんは必要になると思います。その時に編さんに携わっていただける方については、教員を退職された方などが考えられますが、郷土史研究者等の人材育成には、生涯学習教室を通して、関心を持っていただける町民を増やすことを検討したいと思っています。

刊行された町史は、多くの方に知っていただくため、あるいは資料として活用していただけるよう、図書館での閲覧や各地区に配付されています。また、希望される方には販売をしています。

なお、データベース化については、今後検討していきたいと思っています。

③「資料活用・コミュニティ・ビジネス支援など新しい図書館の活用をどう考えるか」についてです。

公立図書館は、住民のために資料や情報の提供等直接的な援助を行う機関として、住民の需要を把握するよう努めるとともに、それに応じた地域の実情に即した運営に努めるものとされています。

これらを実現するために、図書館には多くの事業が期待されておりますが、当町の図書館は限られた予算と施設という中で運営をしていますので、町民に身近な図書館として、親子で読書をする、あるいは読みたい本のリクエストに対し県内の図書館から借りるなど、町民が本に親しむ機会を持っていただく場としてのサービスを当分は提供していきたいと考えております。

しかし、図書館に対する町民の皆様からの声を聴きながら、要望の多いものについては、財政面や必要性などを検討して応えていきたいと思っております。

2. 町内のネットワーク創りの取組は。①「各地区との連携、防災上の取組、サービスの向上に通信技術の活用をどう考えるか。地区の職員の窓口的サービス対応件数と成果は」についてです。

国は少子高齢化、医師不足、協働教育の実現、地域経済の活性化などの様々な課題に対応するため、多様な分野においてICT（情報通信技術）の効果的な利活用の促進に取り組んでおります。

平成25年10月、「日本で最も美しい村」連合に松崎町とともに加盟した京都府和束町（わづかちょう）では、本年1月から光回線を利用して「行政情報配信システム」を運用し、「まちのお知らせ」「地域情報」「緊急・防災情報」「ホームページ」などを提供するという先進的な事例もあり、各地区との連携、防災対策、行政サービスの向上のためには、ICTの活用が重要であるということは認識しております。

しかし、和束町のようなシステムを構築するためには、光ファイバー網の整備が前提となり、整備に当たっては松崎町全体で町負担が1億5千万円余となることから、負担の少ない松崎局エリア（松崎・中川・岩科）の整備から検討してまいりたいと考えております。

なお、地区の職員の窓口的サービス対応件数については集計しておりませんが、現在、35地区のうち、職員がいる29地区については、毎週木曜日に職員が区長さん宛の文書を届けており、また、職員不在の6地区（小杉原・池代・明伏・大沢・門野・八木山）においては、水道係が施設点検の際に持参するほか、郵送で対応しております。

職員は託送の際に区長さんから相談を受けることや文書を預かることもあり、また、地区住民からの相談や依頼ごとも窓口として随時対応しております。

②「町のICTの活用状況はどのようなものか」についてでございます。

ICTの活用につきましては、ただいまご回答いたしましたとおり、光ファイバー網などの情報インフラ整備の遅れもあり、十分な対応はできておりません。

現在の活用状況は、平成23年4月より、津波情報や緊急地震速報、国民保護情報といった緊急事態が発生した場合に、国が発信した情報を受け、町の同報無線が自動的に放送する「災害情報共有システム（Jアラート）」を導入するとともに、「エリアメール」、「職員安否確認システム」などのより緊急・防災情報の提供がされています。

また、「道の駅」花の三聖苑では、無線LANによるインターネット接続が可能なWi-Fiスポットが整備され、外で便利にインターネットが使えるようになっています。

3. 定住化への支援の具体的取組は。①「企画観光課I・Uターン者相談窓口の利用状況は」についてです。

現在、企画観光課のまちづくり推進係が移住・定住に関する業務を担い、Iターン・Uターン希望者との相談や空き家情報の提供を行っております。また、就農希望者につきましては産業建設課の産業係にも相談の場に加わり、就農相談や支援事業の説明を行っております。

なお、本年11月までに移住相談があった件数は、来庁が5件、文書での問い合わせが6件、電話での問い合わせ2件、計13件となっています。

②「受け身相談ではなく積極的支援策が必要ではないか。支援策の活用状況は」についてです。

町では移住・交流を推進する上で、現在ホームページで就農応援プロジェクトとして「農地貸借等情報公開」や「新規就農者支援事業」、空き家情報バンクなどで情報提供しております。

空き家情報につきましては、現在、登録物件がないことから地域おこし協力隊が各地区を回り、物件調査を行うとともに登録のお願いをしております。

相談につきましても待ちの受け身姿勢ではなく、都市部に出向いての相談会へも積極的に参加しております。6月に東京都で開催されたNPO法人「ふるさと回帰支援センター」主催の「山梨県・長野県・静岡県／3県合同移住相談会&セミナー」や11月に横浜市で開催された「富士の国ふるさと暮らし相談会」に参加し、ブースを設けて町の情報を提供するとともに、移住を希望する方々からの具体的な相談を受けております。

なお、来年2月には、「第4回田舎暮らし応援ツアー」を開催し、農作業等の体験やIタ

ーン者との意見交換などを通して今後の移住・定住を検討していただくこととしております。

以上でございます。

○5番(高柳孝博君) 一問一答でお願いします。

○議長(稲葉昭宏君) 許可します。

○5番(高柳孝博君) まず1点目、まち・ひと・しごと創生の考え方ですけれど、これについては改めて言うまでもなく、当然、まち・ひと・しごとなんていうのは通常考えなくてはいけないことだと思います。

総合計画の中でもそのところは当然考えてやられていると考えるわけですが、しかし、今までやってきた総合計画、第4次総合計画というのがあるわけですが、それらについても本当にその成果が出ているのかどうか。それと、第5次総合計画において、その戦略というのは重点的に何を考えているか、町長の考え方をお願いします。

○町長(齋藤文彦君) やっぱり町長の考え方といいますと、やっぱり町を構成するのは人でするので、人が活発に動くような体制を整えなければいかんと思っています。

それで、やっぱり若い人たちがなんといいますか・・・、いろいろ働きたくても雇用の場がないというようなことがありますので、そのようなことを総合的にやるのが、まち・ひと・しごとの創生の仕組みだと私は思っています。

その点でちょっと・・・、「日本で最も美しい村」連合に入ったわけですが、そのようなことをうまく活用してやっていければいいのかなと。これが答えになるかどうかわかりませんが、私はそう思っています。

○5番(高柳孝博君) 美しい村連合に加盟したというのは、私は、町長の決意であるというふうにとらえているわけですが、実際に活性化とか何かはどう結び付けていくかをちゃんと想定したいなもので、特に目標をもって進めていかないと、それが本当にうまくいっているかどうか評価できないのではないかと。そのあたりはいかがでしょうか。

○町長(齋藤文彦君) 高柳議員さんの言うように、やっぱり目に見えるようなことがなかなかできないところがあるわけですが、そのような形にしていかなければいけないと思っています。

○5番(高柳孝博君) 質問に立ち返りますと、まず資源の定義ですが、町の資源というのは、その3つだけではないわけですね。町の資源はもっとあります。その3つを使って・・・、今までも使ってきてやっているわけですね。蔵もやっています。なまこ壁もやっ

ています。それから桜葉もありました。棚田もありました。それぞれやってきて、それ以上に活性化しようとする、新たなことをやらなければいけないと思います。そのあたり、その3つだけではなくて、そのほかの資源というのをきっちりと定義して本当に使うのは何か、農業で使うのは何か、漁業で使うのは何か、商業はどうあるべきか、サービス産業はどうあるべきか、そのあたりをきちっとつくっていく。前から私が申し上げているのは、長期ビジョンをつくれと申し上げているわけです。そのあたりの考えはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほど美しい村の加盟に際しまして、3つの資源を出ささせていただきました。ただ単にそれだけをやはり守っていく、継続していくということではないわけでございます。これはもちろん承知をしております。

町長の答弁の中でも、農林水産物あるいは景観ですとか、文化歴史ですとか、そういったものを、地域にあるものが地域の資源であると、それをどういうふうに活用していくかということ、それをそれぞれが考えていかなければならないということだと思います。

高柳議員もやられております桑の葉とかについてもやっぱり遊休地ですか、休耕田を使って桑を栽培して、販売につなげているというような一つの事例かと思っておりますので、それぞれがいろんな地域の宝に気づいていただいて、それを活用していく方法を考えていただくということが一番いいのではないかと考えております。当然、町の方も支援は惜しまないというふうに考えています。

○5番（高柳孝博君） 資源と言っていますけれど、町の産業は、まず第一に何だというふう考えられているのでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 町の資源の第一は、私は観光だと・・・それで、私は普通の観光ではなくて、やっぱり松崎町としては、第一次産業、農林漁業を土台とした観光ということで、農業と観光を関連づけて町を活性化したいということで、全町まるごとふる里自然体験学校、体験を通して対価を得るということでやっているわけでございます。

その中で、今度桜葉の方が組合を立ち上げてくれて、桑葉ファームの方も立ち上げてくれて、そのようなことが徐々に、地味ですけども出てきているのかなと・・・これが本当に若い人たちにつながって、雇用につながっていけばいいのかなということを感じているところでございます。

○5番（高柳孝博君） 観光が主幹産業であるというのは、以前からおっしゃられているところなんで確認したわけですけど、観光も実際には、もう民宿の方とか後継者がなくなってきていますよね、現実にね。そのあたりをどうするか考えなければいけないと思います。

一つは、就農支援というのをやっていますね。農業の方は就農する方の支援があるわけですが、観光の方の民宿とか何かはもう後継者がいなくなってしまう。交流人口をもちろん増やすのはすごく大事なことなんですけど、来たときに、受けるときに、民宿がだんだんなくなっている。それではこの町の観光産業というのは細る一方ではないかと考えるわけですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 私も岩地に住んでいて、それは痛切に感じるわけですがけれども。今度地域おこし協力隊で来た石部の方が夫婦で来ているわけですがけれども、奥さんが民宿の手伝いをして、生計を立てているというようなことがありますので、今、空いている民宿とか何かいっぱいありますので、そういう民宿をうまく活用して、ビーアンドビー（B&B）で使うとか、その期間だけ別荘として使うとか、そういうようなことを考えていかなければ、これからの観光というのはやっていけないと思うわけですがけれども。なかなかそれを誰がやるかということになると、非常に難しいところがありまして苦慮しているところですがけれども、これからの生き方というのは、そういう今あるものをうまく利用していかないと活性化はないのかなと思っています。

○5番（高柳孝博君） 民宿がだんだんなくなっていく一つの理由として、後継者がいないということが一つあると思うんですね。一方で、都会から来たい人もいるわけです。だから一つの考え方はけれども、例えば、民宿に後継者がいないところに、「この民宿を使っていいから、若い方いらしてください」「経営してみませんか」という募集の仕方というものもあると思います。そしてその方たちが、そこに本当に民宿経営をやるのであれば、経営の支援、就農支援と同じように観光の業務の支援というやり方があってもいいと思います。確か農業の方は150万円というのがあったと思うんですが、そういったものを入れて若い人に器を提供するので、やってみませんかという支援の仕方、町がやるのはたぶん法律の規制と緩和と、そして補助金・・・、稼働もあるでしょうけれど、そういったことを考えてみると、まだやることあるんじゃないか。そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり各地域をみましても空いている民宿とか何かいろいろあるわけですがけれども、それを使って活用する場合、貸してくださいと言ってもなかなか誰がいるかということが非常に難しく、本当に信用ある人がいかなないとなかなか難しいところがあります。

だから、高柳議員の言うような、そういうのは本当は大切だとは思いますがけれども、非常に難しいところがございます、そのようなところを乗り越えていかなければなかなか増

えていけないと思うんですけど、なかなかやってみると非常になんと言いますか・・・、こんなことを言うと怒られますけれども、本当にいい人ばかりが来てくれればいいわけですが、いろいろ自分だけの考えだけで来る人がいたりして、その地域を乱すような人もいますので、なかなか難しいところがありますけれども、そのようなことを言っていられないので、考えて進まざるを得ないと思います。

- 5番（高柳孝博君） 来ていただく方を選ばなければいけないというのは、これは前に神山町の方がいらっしゃって、人を選ばなければいけないということをおっしゃっていた。まさにその通りだと思います。ただし、難しい難しいということそのまま消滅していってしまうので、そのあたりはぜひ今後もまだあきらめないで、ぜひチャレンジしていただきたいと思います。

それから、二つ目の町の歴史文化の次世代への引き継ぎなんですけれど、やはり町の中の・・・、よく町の人には先生だとおっしゃられるわけですが、そういった方はやっぱりこの人はもう先生として十分な方だということで、あるいは育てて・・・、育てた場合に、マイスター的に何か、あなたはこういうことを町のためにぜひお願いしたい・・・。社会教育の方も・・・、社会教育のインストラクターというのを育てなさいと言われていたわけですね。そういった意味では、そういったインストラクターみたいなものが育っていく、そうしたら育ててきた時に町として、あなたはインストラクターとして資格のある方ですよみたいな考えもあると思うんです。そのあたりはいかがか。あるいはそういった方に対しての活動の支援というのは、町として何ができるかという検討も必要じゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

- 町長（齋藤文彦君） 議会だよりに「この人に聞きました」というのが3人出てきて、私は非常に感動したわけですが、そして、今、町の方でもがんばっている人とか、特技を持っている人を区長さんの方に推薦してくれないかと、それで35地区で出てくると思うんですけども。そうすると松崎でがんばって、こういう特技を持っている人とかある程度網羅できて、個人でできるというような感じになると思うんですけども、それがある程度・・・、マイスターとはちょっと違うと思うんですけども、松崎町のマイスターみたいな形にして、ここにこういう人がいるから、これを頼みに行ったらいいとかというのをやらざるを得ないなと思っています。

それで、やっぱり松崎の祭りは本当に素晴らしい、11月の祭りは素晴らしいと思うわけですが、聞くとその地域でも引き継ぐ人がいなくなって、だんだん、だんだん廃れていく

と。やっぱり祭りが終わったらその地域は終わりだと思っていますので、そのようなことを踏まえながらやっていきたいと。それで町でどういうことができるかわかりませんが、そういう人が集まってもらって、講演してもらったり、いろいろなことをしながら、謝礼を払うような形でやっていけばいいのかなと思っていますのでございます。

- 5番（高柳孝博君） まさに祭りの話も出ましたけれども、祭りそのもの、例えば三番叟をとっても三番叟保存会の人たち、ある人のリーダーが、しっかりとしたリーダーが伝えているということで、いま伝わっていると思うんですね。そういった意味では、そういった人のリストがあるかというのを前に質問したわけですが、リストを作る予定はないというお話でしたけれども、本当にそうなのか、しっかりちゃんとこういう人がいるんだということを確認しておいて、そこで町がどう支援していけるか、そこをやはり考える必要があると思います。

宗教と・・・お祭りは宗教と切り離せるかというのはちょっとわからないんですけど、いづれにしても、ほかの体験学習にしてもそのインストラクターになる方は、本当に素晴らしい方がいらっしゃるわけですので、そのあたりに対して「頑張ってくださいね」だけではなくて、もっと町として何とか明確にして支援する。そういったことをしていくと、これから引き継ぐのにいいのではないかと考えます。

時間がないのであまりあれしませんけれど、特にデータベース化というのは非常に大事だと思って、私は何回もデータベース化で質問しているわけですが、確かに資料は、町史編さんの中で冊子を作られています。松崎の歴史という本もできています。

しかし、町民が本当にそれをいま知っているかという、私はあまり伝わっていないように思っているんですね。だから、それをちゃんと伝える状態、今いろんな方が町史に関しての・・・、町外の方も一生懸命やって講演みたいなものをやってくれています。また生涯学習の方でも講師としてやっておりますけれど、データベースというのは、非常に今のICTを使った一つの非常にいいやり方だと思うんですが、町では今どうなっているのか。縄文時代から延々と続く町の歴史というのが、本当に皆さん知っているかという、私はそうではないと思っていますので、そのあたりを伝えるのにやはりこれからの時代は、本を配ったからいいだけではなくて、データベースで拾えるようにする。例えば、相生堂というのが今ちょっと若干新聞に出てにぎやかになっているんですけども、相生堂なんかも歴史が・・・、真偽は別として、ああいう物語というのをしっかり伝えていくというのが大事じゃないかと思えますね。あそこの大橋ですか、大橋の所につばめの絵がありますけれど、つばめの絵に対して

物語を作れという話を聞いているわけです。越冬できないつばめということで、あることないことみたいな感じなんですけれど、例えばの話で、そういったものが、それも資源ではないかと私は考えるわけです。そのあたりどう残すか。そして、住民にどう広げていくか。いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 高柳議員さんの話を聞いて、私もそのとおりだと思いますので、この松崎の歴史というのは、ぼくらは歴史の上に生きているわけですから、これをつなげないとうまくないということがありますので、そういうことは伝えていくような、データベース化させていくようなことを・・・、高柳さんはベテランですから、ぜひ知恵を拝借してやっていきたいなと思っています。

○5番（高柳孝博君） かつては、町の歴史について読み合わせをするようなグループがあったと聞いています。今はたぶんそういうことはやられていない。生涯学習の方ではたぶんやられているのかと思いますけれど、あるグループが読み合わせをやって、町の歴史を学んだということがありますので、まず町の歴史というのは非常に大きな資産だと思っていますので、そのあたりもぜひ復活していただけたらと思います。そのあたりはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） どのような形でできるかわかりませんが、教育委員会の方と話し合っ、そのようなことができればいいかなと思っています。桜井先生の話も聞いてみてぼくらもものすごく感動しますので、ああいうのを町の人も勉強するべきだと思いますので、どのような形でできるかわかりませんが、そのようなことを進めていきたいなと思います。

○5番（高柳孝博君） 時間もありますので、教育委員の方のお話も聞きたいんですけど、ここはぜひ検討していただいて、実現しないことには・・・、行動しないと何も起きない。もう何回もデータベースを言っているんですけど、データベースはお金がかかるかもしれませんが、できたら素晴らしいことができると思っていますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

そして、次の町のネットワークづくりなんですけど、これはネットワークは現在できていない時点でどんな効果があるとなかなか言えないわけなんですけれど、地区が孤立する可能性があるわけですね、町は35地区ありますけれど。通信が遮断する、そして携帯が今はあるので携帯でやると・・・、なかなか携帯を使わない方もいらっしゃるんで、そのあたりをどうしていくか。特に防災の時に、遮断した時に、地域の自助というのが非常に大事で、防災というのが・・・、長野の今回の災害ですかね。地域の方が非常に連携してやっていたと・・・。

しかし、今この町の中で連携してやりたくても人がいなくなっていくということが、これからだんだん出てくるわけです。そういったときに大きな意味の広域ではなくて、町の中のローカルのエリアのネットワークというのをしっかりと作っておいて、どうするか。

例えば、防災の資源についても、それぞれのところがしっかりつながっていれば、何が、ニーズが・・・、そのこの地区によってニーズが違うかもしれません。実際に避難した人なんかも時系列で、時間によってニーズが変わってきているということをおっしゃっていますので、食料ばかりバンバン言ってもほかのものが・・・、食料が足りてくれば、ほかの物が必要になるということが出てくるわけですね。そういったこと。

それから、コミュニティという意味でもだんだん高齢者になって外に出なくなってくるので、そこら辺のコミュニケーションの手段としてのネットワークというのをしっかり作らなければならないと。ただ町の職員が行ってそこで話を聞くというだけではちょっと不十分ではないかと、もっと積極的なアグレッシブな取り組みがあってもいいんじゃないかと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） そのとおりだと思っています。

それが今、自分たちが行ってみて、あるところで炭焼きをやっていると、そうするとやっぱり連携が取れていて、ここだったら災害があっても大丈夫だなというのを感じるわけですが、やっぱりその地域で何か一緒にやるということが一番の原点の大切なことだと思いますので、そのような情報をうまくやるのは、これから構築していかなければいかんと思うんですけど、やっていきたいと思っています。

それで、さっき檀上から言いました京都の和束町の件ですけれども、和束町は、松崎町は51番目に認定されて、52番目が和束町で、町長といつも席が隣でいろいろ話をしているわけですが、光ファイバーを使って町の情報を全部、細かい地区のことまで全部流しているというような話を聞いていますので、そのようなことができればいいのかなと、テレビを見ながら、松崎の情報が全部流れてくると。そして暴風雨で音が聞こえないけれどもテレビを見るとそれが流れてくるようにやっていると聞いていますので、そのようなことをやっていけばいいのかなと考えるところでございます。

○5番（高柳孝博君） ネットワークというのは、常に情報を判断するときに非常に大事だと思います。情報が入って来ないと判断もできない。当然の話で、そういったことを考えてみますと、防災にしましても福祉にしましても、ネットワークというのは非常に大事だと思っていますので、ぜひ、他がやらないからやらないではなくて、だからこそ町がやるくらいの

意気込みで取り組んでみていただきたいと思うわけです。そのあたりの心意気みたいなものをもう一度お願いします。

○町長（齋藤文彦君） この場ですぐというのは断言できないわけですがけれども、そのようなことをやっていかざるを得ないと思っていますので、考えてやっていきたいと思います。

○5番（高柳孝博君） 次の質問にも関連してくるんですけど、いまICTを使った活性化というのを国の方で盛んに言っていますよね。総務省も言っていますし、当然の今の時代の流れでネットワーク化というのが進んでいる中で、携帯も多くの方が持っています。小学生まで持っている時代になってきているわけです。そういったものをうまくどう使っていくか、小学生の安否確認自体が携帯でできるんですよ。それらもまだいろんなことがいま世の中で進んできている。特にネットワークというのは、もうクラウドという時代になってきて、みんなが共有しようと思えばできる時代になってきている。だから、そういったことを考えて、ほかでやっていないからではなくて、ぜひ町として通信技術をどう活用していくのか。

行政の改革というのに通信技術というのは、今は欠かせないと思うんですよ。昔みたいに・・・、今、先ほどおっしゃられた職員の窓口サービスというのは、全く昔の対応と変わっていないくて、私も区長を経験しましたがけれど、区長会の中で、連絡事項を町へ届けていくと、そういったようなことで、じゃあ区長が町の中のどこの意見を聞けるかという・・・、実際私はそうではないと思います。ある程度のものはつかまっていると思いますけれど、もっときめ細かな・・・、これからやっていかないと、もしかすると、こたつの中で亡くなっている方が出るかもしれませんよね。安否確認というのものなかなか・・・、いろいろな安否確認というのは知っています。新聞配達の方であるとか、牛乳の配達の方であるとか、郵便の方とか、そういう方に協力をいただいているのはもちろんわかるんですけど、リアルタイムにやろうとすると、どうしても通信というのが必要になる。そのあたり・・・、しかも大量になってくると、そういった人が行ってやるというのは限界があると思います。

例えば、民生委員さんが行くにしても、民生委員さんが自分のところをぐるぐる回ってお話を聞いていったら何日かかるかわかりませんので、そういったことも含めて、あるいはいろんな行政の風通しをよくする、住民との間をよくするという意味で、ぜひ必要ではないかと・・・。すぐに入るとは思いません。もちろん光ケーブルというのは近いうちに入るとは思いますけれど、それらを構えた時に、どう使うかというのをまず考えていかないと、設備はできたけれど、それがうまく使われない。ハードはたぶんできるでしょう。いずれにしまし

でもお金の問題等がある。ハードはできるでしょうけれど、ソフトをどうするかというのを考えて、今から考えておいて、できた時にすぐ使う。先ほど1億5千万円とありましたけれど、1億5千万円の金を使ったら、できたらすぐ使うというくらいのタイミングで検討していかなければいけないと思います。そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） ハードの面ですけれども、この前知事にあつた時にも、ぼくらのところは交通の便が悪いと、そして道路を造ってくれというのはなかなか金がかかって、何年もかかるけれども、光通信だったら、そんなに金がかからないじゃないかということで、西伊豆町と松崎町と賀茂の首長会で、この議会が終わった後、すぐ県へハードの面は陳情に行きます。ただ、できても、それをただできたで・・・、先ほど、ちゃんと、松崎町の方がちゃんとしていないとうまくありませんので、やっぱりどういうふうな情報を直接流すのかというようなことを、いま担当者がいろいろWi-Fiとか何とかも入れて考えていますので、そのようなことができるようになればいいなと思っています。

ただ、光ファバーの関係でも民間企業が入ってくれるところはランニングコストがかからないわけですが、やっぱり補助金をもらってやるとランニングコストがものすごくかかるということで、非常に頭を悩ますところがあるわけですが、一応知事のところに会いに行こうということで、これが終わった後、すぐに光ファイバー、ハードの面に関しては賀茂の首長会でお願いに行くところでございます。

○5番（高柳孝博君） どことこの地区だったかと思いますが、町長は光ケーブルを入れたいと言って、議会の方で否決して入れなかったところがありますよね。しかし、費用対効果を考えて、これだけの費用がかかるんだけど、それ以上の効果があるよというソフトの使い方というのがしっかりしていれば、陳情するについても、こういうことをやるんだからくださいというやり方のほうが、私は実現性があると思いますので、それをやる作業というのは、そんなに待てないと考えますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど申したとおり、すぐできるとは思わないわけですが、光ファイバーを入れるのには、ただ機械をつくったら、それではどう活用するんだということがございますので、担当の方でいろいろこういうことができるよというようなやつを今やっているところでございます。

○5番（高柳孝博君） 国の方が予算を・・・、もう予算編成の概算を出されたと思うんですけど、出した時に、じゃあ、各省庁がどうしたかというところと地方創生というのにみんなくっつけたそうです。地方創生を付ければ、それが通りやすいということで。いろんな事業、それ

ぞれのセクションのところでの事業をやっていると思うんです。

しかし、その時に、出てきてからでは遅いと思うんですよね。たぶんこれを・・・、戦略が出てきたときに、予算をいくらかその戦略に対してつけてきます。各省庁で付けてきます。そういった時に、松崎町がその予算にどう乗られるか、それは出てきたあとではちょっと遅いのではないかと。たぶん出せという時には、すぐ出しなさいできますので、あるいは逆に概算要求の中に、こんなものがあるよ、こんなものがあるよと出ていったところが予算が付きやすいということがあるかもしれません。そういった意味では、早く作ってしまわないと、たぶん乗り遅れる。光ケーブルが入るなんていうのは、私は遅いと思っていますけれども、ADSLが入ったときも松崎は遅かったですね。石部の方は一番最後までだったと思うんですが、非常に遅かった。逆に、それを早めるためには、待つのではなくて、こういう使い方をするんだ、こうすれば町がよくなっていくんだ、元気になるんだ、あるいはこういうことをされるんだということをしっかりと組み立ててやっていく、そのことによって県とか国とか、しっかりアタックして、ぜひ・・・、町はもう自分の財源ではできないというのははっきりしていますので。交付税なら交付税をしっかりとそういう仕組みの中で国が予算を付けてくるのであれば、その予算をしっかりと取れるような取り組みが必要だと思います。いかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 当然、事業費の関係もありますので、それはできるエリアの中で最初は考えるということで、町長の方も答弁しておりますので、現在そういうものに向けて、県の方とも相談をしておりますし、それに向けた動きをしております。併せて、先ほども言いましたように、町長会として、それを後押ししていただくように要望書は提出していくというようなことをございます。

○町長（齋藤文彦君） 高柳議員の言うように、やっぱりこういうことやりたいから、こういうことが欲しいと言っていないと、やっぱり説得力がないと思いますので。そのようなことがすぐできるとはなかなか厳しいところがありますけれど、そのような考えで進めていきたいなと思います。

○5番（高柳孝博君） これから・・・、先ほども檀上でも申し上げましたけれど、戦略的に出てくるわけですね、戦略的に。戦略はこれから出すといっても、政権が変わるとどうなるかわかりませんが、そういったときに、やっぱり町の戦略というのがないと対応していけないんじゃないかと・・・。ぜひそのあたりを作っていただいて少なくとも長期的に考えないと、これはできないな。先ほどすぐにできないということは、長期的に考えなければいけな

いということなので、本来ならば、今度の総合計画の中の実施計画の中に通信のこともしっかりそれを入れて、その通信を主体とした改善案みたいなものがあったのかなと思います。それについては、総合計画委員会の中で申しあげましたので、改めて申しあげませんけれど、そういった策を作っていけば、お待たせしました、これをお願いしますというようなことができるのではないかと。

また、受ける県の方としても、町がこれでやりたいからという施策をしっかりと出してあげれば予算を落としやすいのではないかと思いますので、そのあたり・・・、それは十分ご存じで承知していると思いますので、改めて問いませんが。

次に、定住化への支援の具体的取り組みですけれど、先ほどIターン・Uターン者の相談窓口というのが何件かとおっしゃいましたけれど、私はそれでは全く不十分だと思いますね。なぜ町の人に来ないかということですね。町の人々のニーズというものははっきりして、医療と教育とサービスでしたかね、それがあれば行きたい。しかも行きたいという人が31.6パーセント、約3割くらいの方が町に住んでもいい、退職してからという人もいらっしゃるんでしょけれども、あるわけですね。そうするとニーズ自体はあるよと、じゃあ、なぜ来ないのかといったときに、一つは、空き家なんかの貸し渋りというのがありますよね。町の中でも先ほど空き家バンクと言っていましたけれど、空き家の人がなぜ貸せないかという、やはり町に入った時に、あれですよ・・・、例えば、お墓の掃除とか、お盆に来るとか、それから荷物を置いて倉庫みたいになっているとか、いろいろあると思うんですが、そういったことを解決してあげないと、ただバンクに登録してくださいと言っても登録しないと思うんですよ。だから、登録しやすい、あるいは空き家を使いやすい仕組みづくりというのを考えなければならないといけないと・・・、そのあたり今で十分とお思いでしょうか、いかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 過去に、平成12年ですか、空き家の実態調査をさせていただきました。その時に建物で225件ほどあったわけですが、先ほど高柳議員が言われたように、家財が置いてあるとか、あるいは仏壇が置いてあるとか、あるいはお正月とかお盆に帰って来る、あるいは知らない人に貸したくないよという話があったわけですので、なかなか貸していただける物件がなかったということでございます。

今回、空き家バンク制度を設けましたけれども、現在も登録はされていないわけですし、それを歩いて、地域おこし協力隊が石部、大沢の方も回っていますかね。回って、現況を確認しながら、できるだけ貸していただけるような形をお願いをしているところでございます。

そういった活動を通じて、できるだけ建物を貸していただくということをやっているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 町長、よろしいですか。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど申したとおり、やっぱり家を貸すには、信用ある人じゃないとなかなか動いてくれないので、ここのところが非常に難しいところで、先ほど課長が言いましたけれども、地域おこし協力隊の方が今こまめに回っていますので、ただ家主と話をするとやっぱり厳しいというようなことがありますので、なかなか難しいのかなというところがございます。ただ、これはせっかく家が空いているのをうまく活用しなければうまくありませんので、そのようなことを進めていきたいと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。高柳君、時間延長は。

○5番（高柳孝博君） 延長を。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長します。

○5番（高柳孝博君） 地域おこし協力隊の方が個々に行くって今までやっていなかったことが実際にやられていたということで期待するわけですけど、ただ、行く時に、やはり貸していただく条件というのを付けてあげなきゃいけないと思うんですよね。ただ、「お願いします」「貸してください」と言っても、「家には荷物があるからだめでしょう」「お盆とか何かに行くからだめだよ」と言われて、そうしたら「すみません。だめですね」という話だと、たぶんいま持っている・・・、何らかの理由があって、いま空き家になっていると思うんですよね。そういう理由がクリアされたら、もうとっくに貸してもいいという話があって、そのところでしっかりと空き家を・・・、例えば整備する。あるところでは、空き家を整備するについて、例えば、200万円かかったら100万円の整備というのは町で整備する、補助するというをやっているわけですね。

先ほど申しあげましたように、町がやれることはたぶん法律を作ることと、今の助成金を出すとか、そういうことでしょうかから、そのあたりを例えば整備するときは100万円出しますよ、100万円がいいかどうかというのはこれから議論しなければいけない・・・。そういったこととか、先ほど信用がないからというのは、これは結構あると思いますね。貸しちゃったら戻らないんじゃないとか、そういった心配があると思う。そういったところで、あるところではNPOが借りて、その管理を全部一括で借りちゃう、そして来る人に対しては、1週間住んでみてくださいというようなこともやって、その方たちも整備して、なおかつよそから来た人に対してサポートしてやるというようなこともやっているわけですね。そ

の空き家だけとってみると、そういった器を作る条件というのは必要ではないか。

そしてもう一つ、一番やっぱり来ないというのは、仕事というのが一番の条件じゃないかというように思います。そのあたりの認識はいかがでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 先ほど高柳議員がお話を致しましたけれども、医療関係の問題がまずあり、その次に仕事がないというような部分があるということで、どちらかという
と定年してから来るというような事例が多いと聞いております。

ですから、いずれにしても産業を生み出さなければならないという形の中で、農林水産業ですとか、あるいは観光ですとか、そういうものを通じてこちらで生活ができるような状況をつくるというようなことは必要だと思っています。

それから、空き家バンク、空き家の関係でNPOのお話がありましたけれども、町内でもそういう団体の方が移住に向けて、定住していただくためにそういうことの協力をしてやっていきたいというお話もありますので、それは松崎町だけでなく、西伊豆とか南伊豆とか連携したなかでやっていきたいというような動きもございますので、そちらの方とも連携をしながら対応していきたいと思います。

- 5番（高柳孝博君） 最初に申し上げた町の資源というお話も申し上げましたけれど、来る方に対して、こういう仕事というのは、資源というのは、例えば新しい農業を、こういうことでできるんだから農地をどういうふうにして提供できるから来てくださいという・・・、あるいは漁業であれば、今だんだん船もたぶん乗る人がなくなっていく、そうすると、そういったところにニーズがあれば、この船を使ってもいいですから漁業をやってみませんかとか、そういったような具体的な支援策というのをみせていかないと、なかなか来ていただけない。

それから、医療についても、この町の医療はこうなっています。例えばドクターヘリはこういう状況です。ベッドのあるところはこういうところ。非常に厳しい状況にあるとは思いますが、都会の方は情報を知らずに結構不安に思っていると思いますね。そのあたりをしっかりと出した上で募集しないと、やっぱり安心感は得られない。

それから、教育面にとっても、これは教育委員会の方も影響するかもしれません。生涯学習の方も影響するかもしれませんが。こういうことをやって町民の方にいろんな自分を伸ばす、成長していただく、そういった取り組みをしています。そういった中で、ぜひ参加してください。

それから、消防、実際に来る時には、消防とか、ここは花の日とか掃除とか入っています

よね。そういう方にも来た方には参加していただきますよ。私は花の日とってもすごくいいと思っているんですけど、実際に消防団もいなくなる世代の中で、若い人に来ていただいて、そこに参加していただくというようなことは・・・、そういうことも含めて、町へ来ていただくと、こういうこともやっていただきます。こういうことができますということをしっかりと作っておいて募集しないとなかなか来ないんじゃないかと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 町長の回答でもございましたけれども、こちらで待っているだけではなくて、都会に行って、直接会ってお話をさせていただくというような取り組みをしております。その中で、こういうことはどうなっているんですかとか、それはこういうふうに対応していきますよとかということも当然やっておりますし、先ほど田舎暮らし応援ツアーみたいなものもありましたけれども、そちらによって、こちらにすでに移り住んでいる方と意見交換をする中で、こちらに住むにあたって、こういう問題がありますよとか、こういうことをやっていただきますよというような意見交換もされておりますので、そういうことを通じた中で、少しずつでも知っていただいて、いっぺんに移住ということにはならないと思いますので、そういうことを積み重ねながら、将来的には住んでいただくというような形も必要かなと考えております。

○5番（高柳孝博君） もう時間がなくなったのであれなんですけれど。何度も申し上げております。そのために長期ビジョンというのをもう一度戦略を練り直して、第5次総合計画でそのままいくと私はそのままいっちゃうんじゃないかと・・・、そのままいっちゃうという意味は、何も浮上策というのが見えてこないまま終わるんじゃないかと・・・。

町長はあと3年くらいあるわけで、1期目はいろんな課題とか宿題とかあったでしょうから、ぜひここで新しい齋藤カラーというのを出していただいて、まさに国が戦略を出すと言っている時ですので、町のそういった長期のビジョンを作って、重点的にやる部分ですね。今みたいに町が本当に必要なのは何かといたら定住の人ですよ、定住の人。そこを作らなければならない。これはもう総合計画の中ではっきり謳っているわけですから、定住の人に来ていただくにはどうしたらいいか真剣に考えて、空き家にしても今のサポートにしても、どうしたら来てもらえるかということを・・・。なぜ来ないのかということをしっかりやらないと私は来てもらえないんじゃないかと思っていますので、そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 総合計画は7千人を維持すると、大目標がありますので、そのために

はやっぱり人に来てもらわなければ、なかなかクリアできないと思っていますので。高柳議員のその・・・、非常に難しいところがあると思うんですけど、やっていかざるを得ないと思っていますので、そのようなことで進めていきたいと思います。

- 5番（高柳孝博君） 時間ですので、まとめたいと思います。実際に検討するのは結構なんですけれども、検討をいくらしたところで何も起きないんですね。本当に行動していただきたい。行動しなければ何も起きないというのは、これはもう町長が一番わかっているところで、今までいろんなことをやってきた中で一番わかっていると思いますので、そこを形にしていきたい。

何度も議会の中で長期ビジョンを作れという話をしています。それから美しい村連合の話も・・・町の方も同じようなことをやっているんじゃないかと言われているんですけど。そうではなくてやはり成果をみせないと、そこに何度も質問をされてもそこに出てこないと思いますので、ここで行動していただくことを期待しまして、私の質問を終わります。

- 議長（稲葉昭宏君） 以上で高柳孝博君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩します。

（午前11時34分）
